

第 10 回郡山市上下水道事業経営審議会 議事内容

日 時	令和 3 年 10 月 7 日 (木) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 55 分
場 所	郡山市上下水道局 3 階 特別会議室 (オンライン併用)
出席者	<p>【委員：12 名】 中野和典会長、小林裕子副会長、安部洋子委員、齋藤勉委員、竹谷金浩委員、満田仁一委員 (オンライン)</p> <p>伊藤江梨委員、伊藤清正委員、太田善雄委員、玉野井晃委員、平川真理子委員、松葉俊哉委員</p> <p>※欠席者：大波久夫委員</p> <p>【事務局：17 名】 野崎上下水道事業管理者 外</p>

1 開会	
事務局	第 10 回郡山市上下水道事業経営審議会を開会する。
2 会長あいさつ	
会 長	答申まであと 2 回であり、多岐にわたる重要な項目が審議事項となっている。限られた時間の中で有意義な審議になるように協力をお願いしたい。
3 審議	
事務局	欠席した委員は 1 名。郡山市上下水道事業経営審議会条例第 5 条第 2 項により、出席者が過半数であるため、本日の会議は成立していることを報告する。議事は会長が議長となり進めていただく。
①「郡山市上下水道ビジョン第 3 次実施計画及び財政計画について」	
議 長	事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料 1 郡山市上下水道ビジョン第 3 次実施計画について】 説明
議 長	委員から質問等あればお願いしたい。
委 員	農業集落排水 2 地区を共同化 (公共下水道に接続) するとのことだが、財政計画の中ではどうなっているのか。
事務局	農業集落排水事業の収益や費用が下水道事業に移行することになる。なお、今回説明した 2 地区については現在検討中であり、費用対効果について今後確認することになるため、今回の財政計画には反映させていない。
委 員	技術力向上研修など事業費が 0 円となっている事業の位置付けは。
事務局	技術力向上研修は職員同士で技術を伝える、または事業者の方から情報を得るなどの研修であり、事業費が発生しないため 0 円で計上している。
委 員	農業集落排水の 2 地区のうち早稲原地区が整備済、上伊豆島が整備中となっているが、これらを公共下水道へ接続すると住民は強制的に下水道へ接続となるのか、使用料はどうなるのか。 また、今後も農業集落排水を公共下水道へ接続していく方向性なのか。
事務局	農業集落排水の 2 地区については整備が完了しているが、上伊豆島地区については接続先の公共下水道が整備中となっている。使用料については公共下水道事業と農業集落

	排水事業が同じ使用料であるため変わることはない。 今回は公共下水道に近い2地区の共同化を検討しているが、今後遠い距離でも接続した方が有利である場合には検討していく。
② 「水道料金・下水道使用料及び受益者負担金について」	
議 長	事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料2】水道料金・下水道使用料及び受益者負担金について】説明
議 長	委員から質問等あればお願いしたい。
委 員	現在の水道料金でも将来の資産維持が可能であるとのことだが、事務局が算定した資産維持率と水道料金算定要領で標準とされている資産維持率に乖離があるため見解をいただきたい。
事務局	資産については各事業体によって事情が異なる。水道料金算定要領で標準とされている資産維持率は全国統一した基準にするため、安全側に見込んでいると考えている。
委 員	インフレーションについてはどのように考えているか。
事務局	財政計画において物価上昇は加味していない。今後、物価が上昇した場合には、その時の審議会において審議すべきものと考えている。
委 員	積立金の推移について長期ビジョンを基に算定しているが、4年間で算定すべきものではないか。
事務局	施設更新に使う費用は各年度で差があるため、期間を10年として積立金の推移を確認した。
委 員	特定環境保全公共下水道の経費回収率が低いため下水道事業全体の経費回収率が100%にならないという説明であったが、経費回収率は100%を目指すべきと考える。
事務局	特定環境保全公共下水道の経費回収率を100%とするためには、湖南地区の下水道使用料を約3倍にしなければならないが、下水道料金は市内で同一とし、不平等が無いようにしている。なお、基準外の出資金については、下水道の法定耐用年数が概ね50年であるのに対し、企業債の償還は市の政策上(5年据え置き)元利償還25年としていることから、減価償却費よりも企業債の元金償還金の額が上回っているためであり、一時的に出資金で補填したとしても、減価償却費で回収することになる。
委 員	企業債の償還を短縮していることに対して、制度やメリットがあるのか。
事務局	平成元年頃からこの企業債の償還期間で運用し、公営企業となる前の下水道部から引き継いでいる。
委 員	平成当初は高金利の時代であったため、償還期間を短縮する判断があったと思われる。現在は低金利の時代であるため、減価償却期間と合わせるための検討を提案する。
委 員	国の方針等により、将来的には資産維持費が変わってくるのか。
事務局	国の方針が変更となれば経費回収率が自ずと下がってくる。また、現在の制度では基準外操出金を出さずに資産維持費を積み上げることが出来ないため、制度改正となった際には経営審議会で審議する必要があると考えている。
③ 「上下水道局資産の活用について」	
議 長	事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【資料3】上下水道局資産の活用について】説明
4 その他	
議 長	その他何かあればお願いしたい。
事務局	【報告事項1】工業用水道の上水道への切り替えについて】説明
事務局	【報告事項2】雨水貯留施設等整備事業(郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン)について】説明

委員	ゲリラ豪雨対策9年プランは何年度から何年度までのプランか。
事務局	平成26年度から令和4年度までである。
事務局	【報告事項3】和歌山市の水管橋崩落事故に伴う本市の対応について】説明
事務局	【報告事項4】簡易水道事業について】説明
5 閉会	
事務局	以上をもって、第10回郡山市上下水道事業経営審議会を閉会する。